

成年後見制度の現況及び、計画策定における課題、論点等

ケアマネジャー 赤池美都子

ケアマネジャーから見た現況

- ・ケアマネジャーは、介護保険上での要介護状態で、介護保険サービスを利用している人について、生活動作、理解力や管理能力、判断力、遂行能力、家族との関係や家族の能力をアセスメントするので、金銭管理や身上監護に支援が必要な人を見つけやすい。
- ・多くは家族が本人に代わって判断・管理しているので、成年後見制度を利用している方は少ない。
- ・金銭管理、身上監護が必要な場合にケアマネジャーとして成年後見制度を考えるケースとしては、①身寄りがない ②本人の意向 ③家族関係が良くない ④家族が複数いて方向性がバラバラ などがあげられる。
- ・ケアマネジャーは、成年後見制度の専門家ではないので、情報提供や利用の必要性についての説明は行うが、実際の制度利用にあたって（検討も含む）本人や家族とのやり取り、詳しい説明や実際の手順相談については福祉公社の権利擁護センターにつなげることが多い。

制度利用の課題

- ・申請手続きが煩雑で時間がかかる
- ・利用に金銭的な負担が大きい
- ・後見人を本人が信頼できない
- ・制度利用について本人が受け入れられない

計画策定における課題

本人や家族が感じられるメリットとは何か？

⇒制度導入に労力が大きい。誰がどのように支援してくれるのか。

金銭的な負担が大きい。助成をどの程度活用できるのか。

安心して制度の利用ができない。安心できる仕組みを明確に示せないか。

制度の利用で、生活がどう良く変わるのか。わかりやすい具体例は？